平成28年度　文部科学省初等中等教育局
総合的な教師力向上のための調査研究事業　受託

教職大学院と連動した初任者研修プログラム
（履修証明プログラム）

教職大学院と連携したメンター制による校内研修支援プログラム

教職大学院と連動した初任者研修プログラム（履修証明プログラム）

「学び続ける教員」の育成をキーワードに，週１回の授業参観及び校内カンファレンスを実施，月に２～３回の教職大学院の科目受講により初任者・若手教員の実践力の向上を図るとともに，専修免許状取得を目指すプログラムです。

プログラム参加者（初任者）からの視点

- 教職大学院の教員による，最新の理論や実践に基づいた指導助言。
- 科目等履修の科目と連動した指導により，実践経験を理論化し，定着化と広範化。
- 複数の指導者をモデルとした学びの実現。
- 学校・校種の異なる初任者との学び合い。
- 専門教科の指導の学び合いへの参加。
- 科目等履修によって修得した単位によって，専修免許状の取得が可能[註1]。
- 入学前に実習等の単位取得ができるため，教職大学院入学後学校現場を離れることなく修了することも可能[註2]。

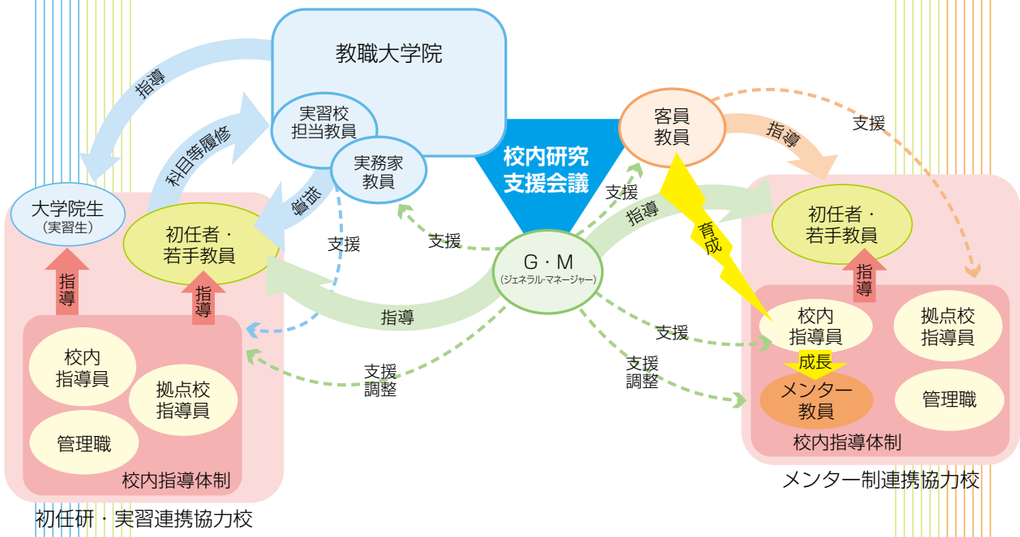
教職大学院での科目受講の様子

プログラム参加者の科目履修の方法

現任校で放課後のカンファレンス

１年目は教職大学院の科目を月に２～３回程度受講するとともに，実習科目として週１回の授業参観と放課後のカンファレンスを実施する。加えて，長期休業中開講の集中講義を履修。
２年目は，週１回の授業参観と放課後のカンファレンスを実施し，長期休業中開講の集中講義を履修。

（履修科目例）
１年目：学校・学級経営Ⅰ，授業・教材研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，課題分析，授業参加インターンシップ等
２年目：学校・学級経営Ⅱ，学校安全と危機管理，授業実践実習Ａ等



教職大学院と連動・連携した指導体制

- 教職大学院が両プログラムに関わる大学教員を集めて，「校内研修支援会議」をもち，情報を共有し，協働して検討することで，担当校の実態の客観化と相対化を図る。
- 初任研・メンター制の両プログラムを常時一緒に比較検討することで，ケースの幅が広がる。
- 教職大学院が中心になることで，最新の知識や理論と現場での経験が融合され，常に大学教員の指導力向上を図ることができる。

初任研・実習連携協力校からの視点

- 校内カンファレンスへの若手教員参加を促すことにより，初任者を核とした若手教員の学びの場の創出と活性化。
- 教職大学院実務家教員による指導助言や校内カンファレンスの運営等を体験的に学習することで，校内指導員等を育成（相互人材育成を図る「メンターチーム」の育成）。
- 校内全体の学び続けるモチベーションの維持・高揚。

初任研・実習連携協力校

- 和歌山市立四箇郷北小学校
- 和歌山市立貴志小学校
- 和歌山市立藤戸台小学校
- 和歌山市立河北中学校
- 和歌山市立貴志中学校

他の初任者の授業を参観

教職大学院と連携したメンター制による校内研修支援プログラム

大学の客員教員が校内指導員とともに初任者・若手教員の授業参観及び校内カンファレンスを行うプログラムを実施することにより，初任者・若手教員の実践力の向上を図るとともに，校内指導員等のメンターとしての力量を向上させ，校内研修の活性化や質の向上も目指しています。

メンター制連携協力校からの視点

- 客員教員が第三者的立場で学校に入ることにより，学内業務もなく指導に専念でき，かつ管理職の視点とは一定離れた観点から見るため，初任者や若手教員に寄り添う指導がより容易になる。
- 客員教員をはじめ複数の教員が，初任者・若手教員の授業を参観するため，より客観的な評価が可能になる。
- カンファレンスの実施等，定期的な校内研修により，初任者や若手教員にとって自己の課題が明確になる。

現任校で放課後のカンファレンス

- 客員教員による指導やカンファレンスの進め方等を体験的に学ぶことで，校内指導に関わる教員がメンターとして成長するための力量形成ができる。
- 校内指導に関わる教員がメンターとして成長することで，校内の教員間での学び合いが活性化し，校内研修の質の向上が図れる。

メンター制連携協力校

- 紀の川市立打田中学校
- 岩出市立山崎北小学校
- 和歌山市立有功東小学校
- 和歌山県立和歌山さくら支援学校
- 紀の川市立貴志川中学校
- 岩出市立岩出小学校
- 和歌山県立紀北支援学校

和歌山大学
マスコットキャラクター
「わだにゃん」

註1：在職４年目以降に申請することで，「教育職員免許法別表三」による軽減措置適用によって専修免許状の取得が可能となる。
註2：長期休業中の集中講義を履修し，実習指導は現任校で受けられるため。また，終了報告書の作成は個別指導で対応する（放課後，土日，長期休業，ネット等）。

プログラム実施責任者

教職大学院専攻長　添田 久美子　教授

プロジェクトG･M
（ジェネラル･マネージャー）

各プログラム対象校との連絡・調整，両プログラムをつなぐ「校内研修支援会議」を開催する。

細田 能成　客員教授

中学校教諭，校長ならびに教育行政等33年

初任研プログラム担当教員

チーフ　豊田 充崇　教授

須佐 宏　准教授
谷尻 治　教授
中山 眞弘　准教授
宮橋 小百合　准教授
坂本 善光　特任教授
深澤 英雄　特任教授
藤本 禎男　特任教授
西浦 民子　特任教授

児童・生徒支援部門担当　衣斐 哲臣　教授
特別支援部門担当　武田 鉄郎　教授
学級経営部門担当　船越 勝　教授

メンター制プログラムの教員紹介

小・中学校・特別支援学校での現場経験豊富な先生方が指導にあたります。

チーフ　岡崎 裕　教職大学院教授

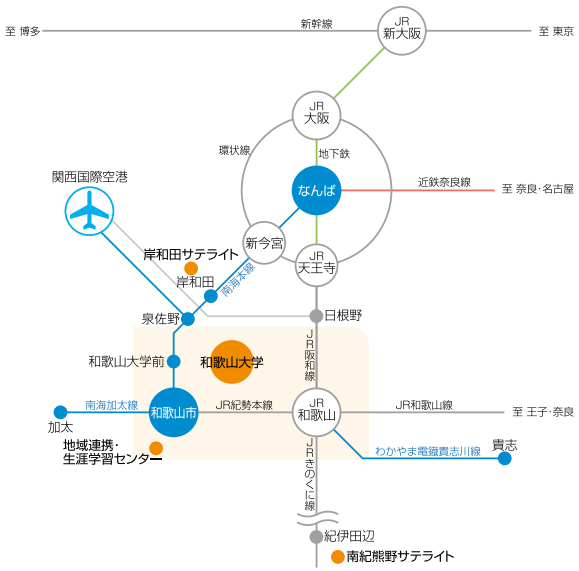
客員教授
三反田 和人
特別支援学校教諭，校長
ならびに教育行政等37年

客員教授
鈴木 達也
中学校教諭，校長
ならびに教育行政等38年

客員教授
中家 英
小・中学校教諭，校長
ならびに教育行政等36年

客員教授
南 知孝
小学校教諭，校長
ならびに教育行政等35年

●電車でのアクセスマップ



●アクセスマップ

南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
南海「和歌山市」駅から和歌山バス(6番・7番乗場)で約20分
JR「和歌山」駅から和歌山バス(4番乗場)で約30分

和歌山大学大学院　教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）
Tel: 073-457-7537　E-mail: pde-edu@center.wakayama-u.ac.jp